

「大山町観光振興ビジョン（案）」へのパブリックコメントの実施結果について

- 1 実施期間：令和8年5月8日から令和8年6月4日まで
- 2 意見及び提案者数：4名
- 3 意見及び提案件数：11件

※類似する意見については、集約しています。

※意見内容は、要旨としていますので原文とは異なります。

【大山町観光振興ビジョン（案）に対する意見等の対応区分】

A：ビジョン案に反映されているもの B：意見を踏まえ、ビジョン案の修正をするもの C：意見として承ったもの

意見内容（大項目）		意見等の内容（要旨）	意見等に対する本町の考え方	対応区分
1	全体として	大山町独自の強みや特色が見えにくい。大山寺だけでなく海・里・農業・食・文化など町全体の魅力を活かし、住民が誇りを持てる観光振興を進めるべき。	本ビジョンでは「未来へつなぐ大山の恵み」を理念に掲げ、海・里・山が近接する本町ならではの地域資源を活かした観光地域づくりを目指しています。歴史・文化・農林水産業・食などの地域資源については、今後策定する観光振興基本計画の中で具体的な活用を検討します。	A
2	持続可能な観光振興による地域づくりについて	観光振興だけでなく、住みたい町づくりや移住・定住の視点も重要である。	本ビジョンは観光を切り口として交流人口の拡大や地域経済の活性化を目指すものです。人口減少対策や移住・定住促進については、他分野の施策とも連携しながら取り組む必要があると考えています。	A
3	観光資源の活用・魅力発信について	海辺観光、サイクルツーリズム、マウンテンバイク、農業体験、地域食材活用など多様な観光コンテンツを充実すべき。	ご提案いただいた内容は、本町の多様な地域資源を活用する上で参考となるものです。具体的な事業については、今後策定する観光振興基本計画及び個別事業の中で検討します。	C
4	住民参画・地域との協働について	住民が主体的に魅力発信できる仕組みづくりや、行政職員を含めた地域の魅力発信を進めるべき。	持続可能な観光地域づくりには住民参画が重要であると認識しています。住民・事業者・関係団体が主体的に関わる観光まちづくりを推進していきます。	A
5	インバウンド誘客・受入環境整備について	外国人向け情報発信や多言語対応を強化するとともに、中学生等の地域人材を活用した国際交流や案内体制を検討すべき。	インバウンド誘客と受入環境整備は重要な施策です。多言語対応や情報発信の強化を進めるとともに、人材育成については今後の基本計画で検討します。	C
6	観光DX・共通データ基盤について	観光DXを情報発信だけでなく、予約・決済・顧客管理・再訪促進まで含めた仕組みとして具体化すべき。	P19「重点施策3 官民連携・推進体制の強化」に「観光データの連携・活用による観光地経営の高度化」を記載します。 観光DXは観光客の利便性向上や事業者の生産性向上、観光地経営の高度化に不可欠であると認識しています。今後の観光振興基本計画の中で具体的な施策を検討します。	B

7	交通対策・二次交通について	レンタサイクルやライドシェアなど二次交通の充実を図るべき。	観光客の周遊促進や滞在時間の延伸に向けて二次交通の充実は重要な課題です。いただいたご提案は今後の基本計画及び施策検討の参考とします。	C
8	宿泊施設・空き家活用について	空き家を活用した宿泊施設や体験施設の整備、滞在型観光の推進を図るべき。	宿泊環境の魅力向上や高付加価値化は本町の重要な課題です。いただいたご提案は今後の基本計画策定及び施策検討の参考とします。	C
9	観光人材育成について	子どもや若者、地域住民が観光に関わる機会を増やし、人材育成につなげるべき。	本ビジョンでは住民参画や次世代育成を重要な柱として位置付けています。学校や地域と連携した取組を推進していきます。	A
10	観光財源について	宿泊税等を導入する場合は使途を明確にし、町民にも効果が見える運用を行うべき。	P23「財源の検討」に「財源の活用目的や効果について住民への説明と共有に努める」旨を記載します。 観光振興財源については、受入環境整備や地域資源の保全、人材育成など持続可能な観光地域づくりの観点から研究していきます。	B
11	個別事業提案について	温泉活用、イベント開催、アニメ・漫画との連携、特産品開発等を進めてほしい。	P18「ブランド戦略」に『若年層向けコンテンツ・ポップカルチャー等との連携研究』を記載します。 具体的な事業提案として受け止め、今後の観光振興基本計画及び施策検討の参考とします。	B